



補習校便り

2025.9.6
No. 25-16
マイアミ補習校
校長 嶋中 直幸

9月の生活目標

現地校の勉強と補習校の勉強を計画的にやって、
うまく両立させよう。

生徒会の皆さんで話し合った9月の生活目標です。

現地校の学習も本格的に始まっております。新しい学年になって、勉強も少しずつ難しくなっていると思います。また、宿題なども多くあるのではないのでしょうか。補習校での学習は、一週間のうち土曜日の一回だけです。小学5年生の国語を例にとると、日本の小学生は、書写の時間も含めて年間175時間程度学習しています。マイアミ補習校の小学部5年生は、3時間×41日＝123時間です。日本の小学生より少ない時間で同等の内容を学習しています。授業では、先生方の工夫のもと、内容の精選も図りながら学習が進んでいきます。しかし、しっかり時間をかけたい音読練習や漢字練習など、習熟にあたる部分はどうしても学校だけでは時間がたりません。そこで、「宿題」として、児童生徒の自主性と主体性を重んじた学習が重要になってきます。

補習校と現地校での学習を計画的に進めて、両方とも頑張る、というのが、生徒会の皆さんの決意として、9月の目標に表れました。「二兎を追う者は一兎をも得ず＝He who chases two rabbits catches neither）」という諺があります。中途半端であれば、両方とも失敗することがあるという諺ですが、現地校の学習と補習校の学習と、それぞれにしっかり集中して取り組むことで、自分の力を二倍に拡大することも可能となります。

子どもたちには、「二兎を得ることを目標として、計画を立て、自ら進んで実行する」ことを、頑張ってもらいたいと思います。

脳科学の観点から、人間の脳は、ある区切りまで仕事をやることは得意ですが、いったん区切りをつけたところから次に行動を始めるのは苦手なのだそうです。家に帰って一休みしてしまうと、宿題をするのが「面倒くさい」と感じるのはこのためです。そこで、家に帰ったらカバンから宿題を出して、1問だけ解くまでを「家に帰る」と脳に覚えさせます。脳は、続きから始めるのは得意なので、先に1問解いておけば、遊んだ後でも、すぐに宿題を始められるようになるわけです。

また、「宿題を終えるまでは家に帰らない」というのも良いと思います。3時下校という目標タイムも設定されていますから、集中しやすくなります。ちなみに、

脳は、場所と行動をセットで覚えます。勉強に集中するためには、いつも同じ場所で宿題をすることも有効です。その場所に来たら、すぐに脳が行動を命令できるようになりやすいそうです。

これらが習慣になるまで続けることが大事です。軌道に乗るまでは大変でも、一度軌道に乗ってしまえば、後は少ないエネルギーで行動し続けることができるようになるものです。子どもたちの行動の支えとなる励ましのお声かけをどうぞよろしくお願いいたします。

学年交流会の様子（8月30日）



本年度1回目の学年交流会は雨でしたが、今回はいいお天気となりました。もちろん、はじめから室内での活動を計画していた学年もありました。どちらにしても元気いっぱい活動することができました。小さい子にとっては、お兄ちゃんお姉ちゃんたちと遊んでもらって、嬉しかったようです。



連絡事項（9月6日）

◎8時45分から全校朝会があります。

◎フードバンクがあります。駐車場が限られますので、ご注意ください。

朝のうちは、構内は一方通行とします。SW16thストリートから入り、お子さんをドロップオフした後は、SW87thアベニューゲートから出てください。

◎年間行事予定の変更→先週の運営委員会で、日程の変更が議決されました。

10月18日 定例総会・拡大運営委員会・バザー → 10月25日へ変更

海外子女教育財団からのお知らせ「JOES マガジン」→ [JOES Magazine \(joes-magazine.com\)](http://joes-magazine.com)

- ・特集「綿引理事長×平井一夫氏(元ソニー社長)対談」— 次世代を担う後輩たちへのメッセージ —
- ・海外校写真館 ジッダ日本人学校 ・なっとう ねばじろう イスラエルへ行く